



【おんせん県おおいたへの道のり ～歴史資料にみる温泉行政～】

その2：温泉分析の社会への浸透

まもなく新緑の美しい季節がやってきます。ゴールデンウィークには温泉にゆったり浸かってからだをリセットというのはいかがでしょうか。

さて、温泉施設に行くと脱衣所などに数字や化学物質名などが書かれた掲示物があるのにお気づきでしょうか。温泉を公共に供する場合は、温泉法（第18条）に従って施設内の見やすい場所に温泉の成分や禁忌症などを掲示することが定められています。

入浴者の健康保護などを目的とするこの掲示、根拠となる温泉の成分について大分県で初めて科学的に分析・効用の説明・公表されたのは、明治20（1887）年7月6日の県報「大分県鉱泉試験成績及医事効用書」においてでした。

これは、すぐに来客誘致のためのパンフレット・絵図・書籍などに引用されていきます。

浜脇温泉を紹介した『豊後国浜脇温泉分析並医治効用』（資料①）には、明治20（1887）年の県報に載っている分析成績が引用されています。

しかし出版は明治19（1886）年7月18日、県報に掲載されるより一年も前です。なぜこんなことが？

著者の宇都宮達山（うつのみやりつざん（1822-1898年））が文中で、“其筋”に願い出て“下付”された、と述べています。彼は速見郡大神村（現日出町）出身で帆足萬里の弟子、日出藩で初めて種痘を行った人です。そのため、医療・衛生面でおおいに大分県と関りがあったのではないかと考えられます。

鉄輪温泉のパンフレット『鉄輪蒸窖及両温泉分析並医治効用』（資料②）は明治21（1888）年12月8日発行で、ここにも達山は題辞を寄せています。緒言に、“其筋”が成分検査を行い浴客の参考に提供した、と書かれています。

*蒸窖（じょうこう）：別府八湯のひとつ鉄輪（かななわ）の“むし湯”のこと

同年発行された佐藤蔵太郎編著『別府温泉記』（資料③）には、楠木湯・野田ノ湯・不老ノ湯・高札ノ湯の「温泉試験成績及医事効用表」が“明治20年7月大分県第2部衛生課報告による”と書かれています。

明治37（1904）年に発行『大日本帝国大分県社寺名勝図録』（資料④）では、収められた温泉の図の中でも湯ノ壺温泉（由布院）・湯原温泉（長湯）・七里田温泉（有氏）には説明文に分析結果が引用されています。

明治40（1907）年9月に発行された「豊後有名温泉之図 訂正六版」（画像①）では、「（リーテル）中固形分〇〇〇〇瓦馬を含有」の一文（観海寺ノ湯・亀川の四ノ湯）と医事効用が引用されています。

明治43年7月6日発行の「豊後有名温泉之図」（画像②）にも引用があり、その中から不老泉を見てみましょう（画像③）。

なお、この絵図には、発行された時点では開通していなかった豊州本線（現・日豊本線。開通は明治44（1901）年）の線路と駅名がかき込まれています。鉄道開通を人々が待ち望んでいたことの現れでしょうか。

画像①



このように「鉱泉試験成績及医事効用書」が引用されたパンフレット・絵図・書籍を見ていくと、西洋文化の流入が人々の生活へ浸透し、影響が深まり、集客に効果あり！と引用先メディアが広がり増えていったのではと思われます。

画像②



画像③

不老泉
一本泉ノ醫治効用ハ内
用ニハ慢性胃病一慢
性胃カタル慢性胃潰
瘍食思欠也胃擴張消
化不良腸管弛緩下腹
血常便泌肝臓脾臓諸
肥大ニ全身病一貧血
萎黄病諸病一神機亢
神經系諸病一腦脊
中風知覺過敏一混
兒私的里一秘尿生
器病婦人生殖器慢性
病一全身病一腺病貧
症一慢性炎症一組織
大慢性肋膜炎蜂蟻
腹膜炎及創傷後等
出物ヲ解散ス皮膚病
頑固ノ潰瘍瘻管及
瘻管及慢性混疹乾癬
ナリ

明治三十九年十月共日採酌
全 年十月十日折終了
大分縣警察部 衛生課

「豊後有名温泉之圖」
に引用された分析結果

浜臨東温泉・壺潮泉・不老泉の
紹介文には、大分県警察部衛生
課による鉱泉分析結果から得ら
れた温泉の効能が「本泉ノ医治
効用ハ・・・」と説明されていま
す。



資料①「豊後国浜脇温泉分析並医治効用」国立国会図書館デジタルコレクションより

資料②「鉄輪蒸窖及両温泉分析並医治効用」国立国会図書館デジタルコレクションより

資料③「別府温泉記」大分県立図書館所蔵

資料④「大分県社寺名勝図録」（復刻版） 当館所蔵

【参考資料】

「帆足万里」大分県先哲叢書 大分県先哲史料館編集